

花組公演

喜びと、苦しみの全てである君へ――

ミュージカル

巡礼の年

～リスト・フェレンツ、魂の彷徨～
作・演出／生田 大和

ショー・グループ

Fashionable Empire

作・演出／稲葉 大地

水島舞斗

星美ましろ

水島舞斗

宝塚観劇ツアー 予習用

2022.6.26 (Sun)

11:00～

花組公演

宝塚大劇場

今回の公演の予備知識①

【花組さんに関して】

- ・宝塚歌劇団には、**花・月・雪・星・宙**の5つの組と専科があります。
- ・花組はその中でも伝統的に「ダンスの花組」と呼ばれることが多く、比較的歴代のトップスターさんにダンサーが多い組です。

花組トップスター
柚香 光(ゆずか れい)
愛称:れいちゃん
フ란ツ・リスト役
身長171cm



花組トップ娘役
星風 まどか(ほしかぜ まどか)
ダグー伯爵夫人 役
身長162cm



花組2番手スター
水美 舞斗(みなみ まいと)
愛称:マイティ
フレデリック・ショパン役
身長170cm



花組3番手スター
永久輝 せあ(とわき せあ)
愛称:ひとこちゃん
ジョルジュ・サンド役
(男役さんですが今回男装の女性役)
身長170cm



今回の公演の予備知識②

【フランツ・リストに関して】

- ①リストは愛の夢(<https://youtu.be/Ll7l3IRST5E>)やラ・カンパネラ(<https://youtu.be/LXEL5DQVUh0>)で超有名な超技巧派のピアニスト・作曲家
 - ②容姿端麗であったことで有名。19世紀社交界の女性に超絶な人気があり、サロンコンサートで失神する女性がいた、風呂の残り湯を盗まれたり、飲み残した紅茶をファンが香水瓶に入れて持ち歩いたり、旅立つ彼を見送るために楽団付きの大型汽船をチャーターし、“追っかけ”に興じる婦人たちもいたという逸話あり
 - ③ハンガリー生まれで幼少時から天才と言われ、パリの音楽院に入学しようとするもハンガリー人であること(貴族でもなかった)ことから入学を拒否され、父親が失意のうちに亡くなるという過去をもつ。
- ※特にこの③がもとになって、今回リストはどんなに人気が出ても自分で自分のことが認められない、他者からの評価でしか自分を認めることができていない人として描かれています。その対比として、同時期に大変人気のあったショパンに対してリストは彼を苦労を知らない天才だと感じてコンプレックスを抱いている、という点を押さえておきましょう。自分で自分を認められなかったリストがショパンやダグー伯爵夫人、サンドとの出会いを通して、自分がなくしたものを取り戻し、自分を認め、自分が何のために音楽を作り奏でるのか、ということに気づく心の旅の物語です。

【その他押さえておきたい背景など】

・この時代、女性はまだまだ男性の飾りでしかなく、何かを表現したいと思っても女性の名前では取り上げてくれるところは少なく、伯爵夫人のマリーも男性のふりをしなければなりません。そんな中、ジョルジュ・サンドは最先端に行く女性で結婚して子供もいましたが、男装をして社交界に出入りし執筆活動も行い、自由に恋愛をしていました。なので、マリーはサンドに憧れの気持ちを持っていたようです。史実でもこの二人は一時期友人であったようです。

【お話しの流れ】

社交界で活躍していたリストは、人気はあるものの貴族に媚びるような生活に嫌気がさし始めています。そんな中、自分の本質見抜く記事を書いたマリーと出会います。マリーもまた男性の飾りでしかない人生に偽りの自分を感じていた為、二人は意気投合、恋に落ち駆け落ちをします。幸せに暮らしていた二人ですが、パリから友人たちが訪れ、以前の恋人であったサンドに、パリで既にリストの居場所は別のピアニストにとって代わられていること、そんな負け犬になってもいいのか？私とあなたはかつて同じ野心を持った同志だったのに、と再び闘志を掻き立てられ、リストは一回だけ最後の勝負をするとパリに戻ります。が、そこで人々に絶賛され、祖国であるハンガリーから評価されたことをきっかけに、再び過去の他者から賞賛される快楽を思い出し、名誉を手にする為にマリーを一人おいて、演奏旅行へと旅立ちます。

- ・帰ってこないリストを一人待つマリーは貴族出身でありながら、身分制を否定する2月革命へと自らを投じ、ついには貴族の地位を手にしたリストの立場を壊すことになっていきます。再会するリストとマリー。ここから、急に心の中の世界の話になるので「え？どういうこととなる可能性が高いのですが、このリストの心の旅によって、最終的にどうなっていくのか、という話ですので、結末は実際にご覧になってくださいね。

【お芝居の見どころ(私の偏見あり(笑))】

- ・トップスターである「れいちゃん」のとにかくカッコよさ。ピアノが得意なジェンヌさんで、今回は実際に冒頭で弾き語り、中盤パリへ戻ってきて勝負のあとタイトルにもなっている「巡礼の年」を自分で弾いています。
- ・リストとマリーが駆け落ちしたあと、そのパトロン(音くり寿)と夫であるダグー伯爵(飛龍つかさ)が中心になって歌う「もうパリへは帰れない」の場面は、歌がうまいこの二人を中心に花組のコーラスの迫力を味わえます。この二人は今回退団します。
- ・サンドは男装の麗人役なので、女性の役ですが今回男役のひとちゃんが演じています。普段男役としては出さない音域の高音の歌唱と娘役さんとは違う色気の出し方を見てください。
- ・トップ娘役のまどかちゃんは可憐な上に歌もうまいので、今回たくさん歌っています。まどかちゃんはきっしーのお気に入りです。
- ・話は終盤「あれ？ここはどこ？」となる場面もありますが、ザ宝塚な豪華な衣装が見られます
⇒休憩を35分挟んで、後半55分はショーになります

【Fashionable Empire】

・ショーは何も考えずに楽しみましょう♪手拍子が入るところもありますから、できれば一緒に手拍子をして、参加した方が楽しめると思います！一体感を味わってみてください。

【ショーの流れ】

①オープニング

3番手ひとちゃんが、どこかにあると言われる帝国を探して迷い込み、2番手マイティに導かれて帝国へと入っていきます。右上から、椅子に座ったトップスターれいちゃんが下りてきてショーの始まりです。右上から客席を見てるれいちゃんを見逃さないでね。

②ファッションショー

トップ娘役のまどかちゃんが、水色と白のストライプの衣装で出てきて、いつか自分もモデルのような格好をしてランウェイを歩きたいと歌います。

やってきたのは3番手ひとちゃんが開催する「せあ永久輝コレクション」。

自分もモデルになりたい、と訴えるまどかちゃんの夢がかないます。着替えて出てくるピンクの衣装が松田聖子のディナーショーみたい、と思うのは

私だけでしょうか(笑)行ったことないですけど。



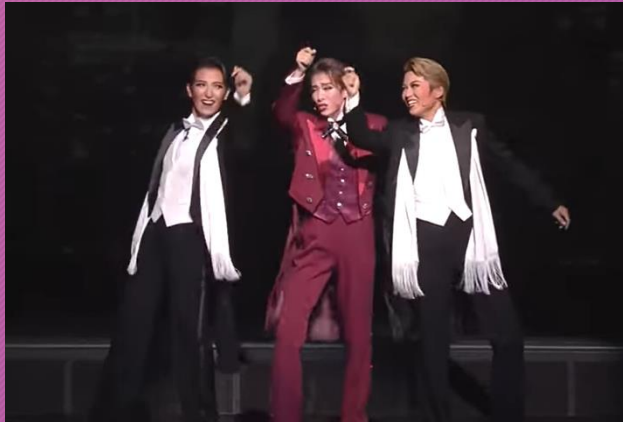
③ラビリンス

4番手の聖乃あすかが、行ってはいけないと言われている 帝国の部分に入っていきます。入っていた先にはトップスターれいちゃんが、美女を侍らせていますが、そこに2番手マイティ率いる男性たちがやってきて、女性を巡る戦いが始まります。

ビジュアルが最高に美しくダンスの上手い、トップと2番手のダンスと色気が堪能できます。歌がうまい4人が後ろで歌っているのも雰囲気を盛り上げています。

④beautiful night (ショーの中詰:ショーの中盤で盛り上げていく部分になります)

銀橋から3番手ひとちゃんと、二人の男役が出てきて歌いながら渡り、中詰の始まりです。華やかなスターたちが次々と銀橋を歌いつぎ、最終的には組のほぼ全員が出て総踊りになります。華やかな場面です。宝塚と言えば、のラインダンスもちろんあります。



⑤club MISTY

真夜中の街を2番手のマイティがクラブへと向かいます。若者たちであふれる 店内。その中で運命の女性と出会うのですが... ちなみに運命の女性は男役で、お芝居でリストとピアノ対決をしていた人です。後半、円の中心で踊るマイティのダンスが圧巻です。



⑥fashionable moment～To the future

宝塚のショーでは比較的好まれる題材の場面。舞台には一人トップスターだけが残し、過ぎ行く月日を惜しんでいます。が、差し込む強い光で今を生きることの大切さに気づき、メンバー全員で力強く踊ります。一旦暗転した後、若手ばかりが残って踊るのも軽快で気持ちいい場面です。



⑦フィナーレ(大階段が出てきます)

宝塚の男役の象徴的アイテム、スーツにハット、ロングコート姿での群舞。銀橋に男役がずらりと並ぶ迫力や、コートの裾を優雅に翻しながら踊る姿は素敵です。その後トップ二人のデュエットダンスから、トップ、トップ娘役、二番手が大きな羽根を背負って降りてきます。最後は楽しく手拍子をどうぞ！

